

2017年12月20日若尾資料

第3回山梨県がん対策推進協議会への若尾要望等  
向こう6年間及びその先の医療政策としてのがん対策を見据えて

はじめに

山梨県の取り組みの指標として、「75歳未満がんによる年齢調整死亡率10年前に比べ概ね2割減」を継続させ続けることを掲げたことを高く評価します。  
そして、国と同じように、スローガンとして掲げている「すべての山梨県民が、がんを知りがんの克服を目指す」体制になることができるよう市町村を含めた行政も一致団結することを望みます。

要望

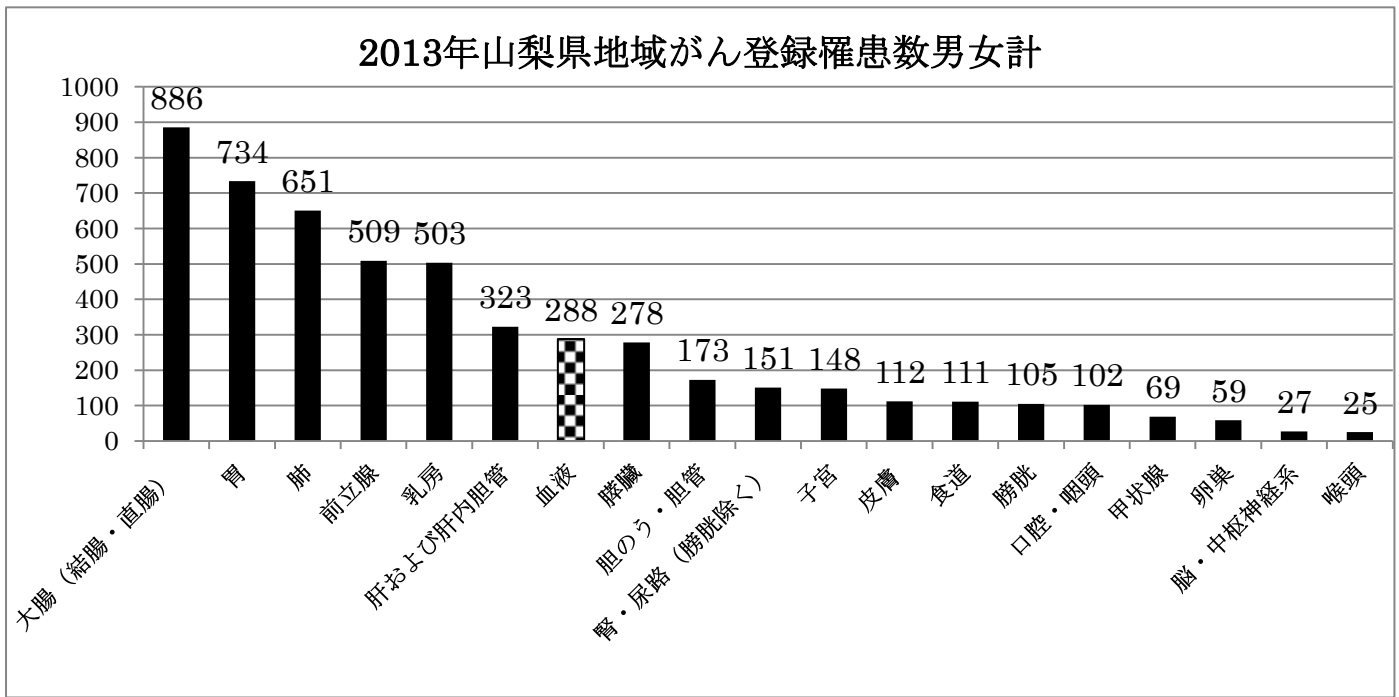
1、目標1として予防を掲げたからには、山梨県におけるタバコ対策として、国の動きをみるのではなく、山梨県独自の受動喫煙に対する意識向上のため、皆で考え社会が行動委変容を起こすような取り組みをしてほしい。

2、目標1として予防を掲げたからには、精密検査受診率の向上のために山梨県として取り組んでほしい事を以下に5点述べます。

- ① 民間活動への支援
- ② 企業での意識啓発を促すための施策
- ③ 県民力の向上に向けての施策（チラシ作製ではない）
- ④ 住民に直結した基礎自治体である市町村との連携充実
- ⑤ 「要精検者」に対する市町村、検診施設と医療機関との連携充実

3、目標2として「患者本位のがん医療の充実を掲げたからには、2018年に展開予定の厚労省からの委託事業国立がんセンター「患者体験調査」への全面展開（山梨県での統一された患者満足度調査につながるから）に相乗りし、現況調査をしてほしい（資料1）。

4、希少・難治性がん対策の例として高齢化に伴う部位別診療科の充実を要望（血液内科）。  
現状ではシニアの血液疾患に対する診断・治療環境は不十分（図1参照）



※ 2016年山梨県地域がん登録データより（山梨県HP地域がん登録2016年より若尾作成）

5、入院から外来に大きくシフトしているがん治療における在宅支援のための事業で「訪問看護推進拠点事業（予算 18,882,000 円）」実施と「トータルサポートケアマネジャー」が本年度育成されているが（予算：2,726,000 円）、在宅医療における有益な資源として、次年度にはどう活用していくのかプランを示してください。

6、第 3 次がん対策推進基本計画の柱の一つである「がんと共生」に向け、児童生徒の入院中の教育とその後のフォローアップ、シニアの治療中、療養中等就労支援などによる治療と生活が両立できる体制整備をどうするのか、特に入院加療児の教育（小・中・高）、退院後の教育、就労支援、AYA を含めたがん治療中及び治療後の就労支援の現状と次年度の計画について各担当部局からの報告を求めます（資料 2）。

7、国立がん研究センターがん情報サービスの拠点病院指定要件資料をみると、山梨県内のがん診療連携拠点病院間のデータのばらつきがみられるが、病院間での更なる情報共有と連携を強化し、県民への有意義な情報提供を行ってほしい（資料 3）。

8、医療と ICT における医療データの共有システムをどのように考えているのか。宮城県は総務省から交付金を得て、医療データの危機管理も踏まえ、「みんなのみやぎネット MMWIN」を構築している。医療資源も乏しく、しかも連携できるサイズである山梨県での取り組みについて担当部局に説明していただきたい。

9、がん教育について、関係機関（教育委員会、県庁スポーツ健康課、その他県庁内義務教育課等関係部署及び健康増進課、学校（小・中・高）など）は情報共有し連携してほしい。また、「外部講師を用いた教育ガイドライン」の徹底周知をお願いしたい。

（資料 1） 第 1 回資料によると、H24 年山梨県県民保険意識調査結果より、在宅療養を望む県民が 52.4%と示してあるが、現実問題としてがんサバイバーが現時点でどう考えているかの現況調査は必至。本年度実施した予算 18,882,000 円予算の訪問看護推進拠点事業の展開にも絡む調査だと思われるので必要だと思われます。

（資料 2） 当方で開催した「小児がん関係者によるしゃべり場」では、小児がん当事者、その家族（兄弟・姉妹を含む）等の孤立感が多く寄せられた。一例として寄せられた文章 2 例をそのまま記します。  
 ①「話す場」は思ったよりも自分の気持ちを吐き出す良い機会になると感じました。治療中の家族は時間が無い中なので、病院でこうした場を作ったり、行政としても課題がはっきりと出たと思います。一人では動けないことが多いので、ここに参加された方とつながりたいです。  
 ②「今までずっと不満に思っていたことの 3 点についてぶちまけられてすっきりしました。たくさん話をするのは大事だと思いました。入院当初からこのように話ができる場、相談できる場があればよかったですとつくづく思います。

（資料 3） 拠点病院のがん患者数（がん情報サービス拠点病院の指定要件資料より）

施設名	2015 年 年間外来がん患者のべ数	2016 年 6 月～7 月 2 か月の相談件数のべ数	2016 年 4 月～7 月 悪性腫瘍の手術件数
山梨県立中央病院	25442	784	327
山梨大学医学部附属病院	48207	95	463
市立甲府病院	7902	231	105
富士吉田市立病院	20495	270	71
山梨厚生病院	17116	65	118